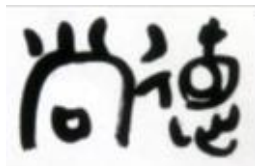


「尚徳」 10月号 第553号 平成30年10月31日



鳥取大学附属小学校 学校便り

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明 附属学校部長 (元校長)



「ブラタモリ」と「研究発表大会」

校長 小玉 芳敬

秋のすがすがしい日々を有意義にお過ごしのことと存じます。先日のブラタモリ、ご家族で楽しんでいただけたでしょうか。NHKの人気番組のひとつです。担当ディレクターから相談を受けたのが2017年12月で、2018年5月15日にはロケ本番。当初の予定では7月28日の放送予定でしたが、台風で延期となり、9月8日放送となりました。担当ディレクターは、おそらく10回以上鳥取や近隣県、あるいは産総研地質調査所などに足を運ぶ、鳥取砂丘に関連しそうな事象を洗いざらい調べあげる、関係者に話を聞く、実際に物を見て体験する、といったことを通してストーリー候補を考えます。私とも4回×3時間ほどの話や現地観察の時間を持ちました。最後は全てをバッサバッサと切り落とし、使う材料が3つに絞られました。そしてテーマとして「鳥取砂丘が人をひきつける魅力とは？」で一本筋を通すこととなりました。

タモリさんが楽しく推理できるかを想像しながら、また視聴者の理解が追いつくか、地元の人も知らないネタが入っているか、そして番組制作者たちが不思議に思ったことに答えているか、このような観点で番組が構想されました。1日かけてのロケやNHKのこれまでの映像資料から45分間の番組に仕上げます。草薙剛さんナレーションの台詞確認も複数の関係者の目を通しますが、それでもミスは起こるもの。再放送までに明らかな間違いを修正し、保存版となります。娯楽番組ブラタモリがどのようにして制作されているか、その一端を知ることができて光栄でした。

さて、本年度の研究発表大会が10月27日に無事終了いたしました。公立校とは異なる附属独自の視点を強く打ち出して、大会に臨みました。京都大学の石井英真先生のご講演で「真正の学習」のためには、対象世界に教師と学習者が共に向き合うことが重要であると、再確認しました。ブラタモリのディレクターが「教師」に、視聴者が「学習者」に相当すると感じました。教師がいかに教材を深く味わい、楽しめるか、そして学習環境をいかにデザインできるか。附小の充実した「授業づくり」にご期待ください。

【うれしい電話】

10月12日(金)、うれしい電話が学校にありました。

「朝、JRで附属小学校の子どもに席を譲ってもらった」という内容でした。

「とてもうれしくて、電話をさせてもらった」ということでした。

電話をいただき、子どもたちが登下校のマナーについて考えていることが伺えるうれしさと、わざわざ電話をしてくださったことに周りの方もいいところをちゃんと見てくださっているのだという有り難さを感じました。

保護者の皆様が日頃より意識して関わってくださっていることの表れだと思います。

子どもたちともうれしい思いを共有したくて、放送で電話があったことを紹介しました。

普段の様子をみても、子どもたち、変わろうとしている子が増えてきています。

ぜひ、引き続き後押しをお願いします。

